

令和5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492900178	事業の開始年月日	平成26年3月1日
		指定年月日	平成26年3月1日
法人名	社会福祉法人 清流会		
事業所名	愛甲グリーンホーム		
所在地	(〒243-0035) 神奈川県厚木市愛甲3丁目18番25号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年11月7日	評価結果 市町村受理日	令和6年3月29日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/14/index.php
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者に安心感をもってお過ごしいただけるよう、できるだけ制約のない雰囲気を
つくり、寄り添うケアをおこなっています。家庭的で安心できる場の提供に配慮しな
がら、日々の暮らしの中で新しい絆を作るお手伝いをしております。近くの保育園と
の交流も含め、地域との交流を図りながら皆様の笑顔があふれる施設を目指してい
ます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2-3 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和5年12月19日	評価機関 評価決定日	令和6年3月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 事業所は、小田急小田原線愛甲石田駅から徒歩15分ほどの農地と戸建て住宅が混 在している環境に位置している。目の前が東名高速道路で、東名厚木バス停から徒 歩で2分の場所にあるため、遠方に住む家族のアクセスも良い。母体となる社会福 祉法人は、厚木市内で特別養護老人ホームとサービス付き高齢者住宅、グループ ホームなどを運営しており、状態変化で利用者が住み替えを希望した場合も、事業 所間で連携を取った対応が可能である。 【理念の実現に向けた取り組み】 法人の理念「あなたの安心のために」の実現に向け、今年度は「専門職としての 個人の成長とチーム力の向上」「生活リハビリの充実」「品格の向上」「家庭的な 施設」の4つを目標を立てた。取り組みのひとつとして、職員のすこしの手助けに より、利用者が、毎日、日中はトイレまで歩行をして、トイレでの排泄できるよう に支援している。また職員が自らの本質を見極めることで、利用者への接遇、職員 間の対応において、常に品格のある立ち振る舞い、丁寧な言葉遣いに注意を払うこ とができ、利用者の安心に繋がると管理者は指導している。 【法人内の委員会組織の連携】 法人は、8つの委員会を組織し、毎月委員会を開催し、各事業所の担当職員が課 題やニーズを踏まえて話し合っている。結果を各事業所に持ち帰り、職員会議で検 討したり、各々の業務改善に反映させている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	愛甲グリーンホーム
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

事業所名	愛甲グリーンホーム
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で安心できる場の提供に配慮しながら、認知症の軽減や心身の状態を穏やかに保てるような支援を実践しています。	法人理念の「あなたの安心のために」を事務室に掲示して職員に周知している。理念の「あなた」は、愛甲グリーンホームにかかわる利用者、家族、地域の方、職員を指している。人事考課のための個人面談資料としてチェックシートを使い、シートには、理念の理解度を尋ねる項目がある。また今年度は、理念をより理解するための4つの目標を掲げ、家庭的な居心地良く安心できるホームづくりを目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症が5類感染症の位置づけとなり、慎重に対応しておりますが、少しずつ地域の催しに参加し交流を図っています。	自治会に加入をして地域の防災訓練の参加に加えて、今年度から地域の祭りや年末の美化清掃などに利用者と職員が参加をしている。事業所に住民票のある方には敬老の日にお祝いの品が届いている。すぐ裏にある保育園から、コロナ禍前には行事の招待などがあった。現在は、四季折々の貼り絵や、クリスマスの飾りなどのプレゼントがあり、交流が継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の防災訓練に参加、地域中学生の職場体験の受入れなどを行ないました。積極的に関わりを持てるよう今後も努力したいと思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は感染症などの心配もあり、書類のみを委員に送付させていただいています。2ヶ月に1回、事業所の取組みや入居者状況を報告し、確認していただいています。今後の開催方法の再検討が必要と感じています。	コロナ禍以降運営推進会議は書面開催が続いているが、対面開催の再開を法と相談している。運営推進会議の委員は、自治会長、民生委員、ボランティア団体の方、保育園副園長、地域包括支援センター職員である。現在は、事業所の活動報告や運営状況などを記した書面を送付した際に意見を伺っているが、委員からは、特段の意見は出ていない。	運営推進会議の委員に家族の参加がありません。家族に事業所の運営に関心を持っていただき、意見や要望を運営に反映させるためにも、運営推進会議への参加を求めることを提案いたします。全家族に書面開催の報告書を送付し、多様な意見をいただくことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村には、認定調査の日程調整や事故報告等を報告させていただいています。事故報告の際は、事故内容や再発防止策を細かに報告し、助言などをいただいています。	行政主催の研修には、できる限り参加をしている。またグループホーム連絡会には法人の理事長が参加をして意見を交換し、情報を得ている。コロナ禍以降電話連絡になっていたが、市の介護課職員と顔の見える関係を築くために、介護保険要介護認定の更新時に市役所に出向いて担当職員と話す機会を作ったり、外部評価報告書を持参する意向がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針について全職員が研修に参加しました。身体拘束について、改めて職員一人ひとりが再確認し、理解を深めることができました。	身体拘束適正化の指針を定め、法人全体で3ヶ月ごとに委員会を開催している。また2か月に1回、各事業所の担当職員が参加をして「拘束廃止・虐待予防実施委員会」で事例を取り上げ、対応策などを検討している。スピーチロックにつながる制止の声掛けなどの防止を職員は常に心がけて利用者のケアに当たっている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が高齢者施設における虐待防止に係る一斉点検を実施し、振り返りを行なっています。日頃のケアを見直すいい機会になっています。	毎年、神奈川県の高齢医者施設における虐待防止のチェックリストでセルフチェックをし、「拘束廃止・虐待予防実施委員会」で検討し、法人に提出している。また結果を各事業所に持ち帰り、職員間で共有している。業務の中でのストレスが利用者への虐待に繋がり易いことから、ストレスを溜めないように配慮し、休憩時間1時間確保の励行や連休での有給休暇取得の励行などの体制づくりに努めている。また、産業医に相談できる体制も整備されている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の研修などには参加ができていません。しかし、必要になった時の連絡先等を記しているパンフレット等は取り揃えており、職員が確認できるようにまとめてあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って説明をさせていただきます。ご利用者やご家族の不安や疑問に関しては、その都度説明をさせていただきます。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にご意見箱を設置し、日ごろから意見・要望をくみ取れるようにしております。苦情に関する問い合わせも、相談窓口を設置しています。	家族の意見は2年ごとの法人実施の「満足度調査」で汲み取ったり、面会時やメールのやり取りの際に把握している。家族からは、「できるだけ歩かせて欲しい」「散歩や外出を増やして欲しい」等の要望があり、今年度は真夏を除き、天気の良い日は散歩に出ている。法人から年3回、法人全体の情報誌「清流」を家族に送付している。利用者の日常の様子や行事の様子などは、法人のホームページ内に各事業所のブログページを設け、タイムリーに情報を発信しており、家族の好評を得ている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回法人内の運営会議に参加し、職員状況や提案事項なども合わせて、事業所報告を実施しています。そして決議事項等は会議録等で確認しています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を用いて、職員の能力や勤務態度、業務に対する貢献度や業績を一定基準で評価し、向上心を持って働けるよう努めています。	法人をあげて働きやすい職場環境の整備に力を入れ、賃金アップなどを叶えている。管理者は、意見の言いやすい風通しの良い職場作りを目指し、職員にも浸透している。連休での有給休暇を取得できるように、シフトを調整をしている。業務の中で各々が苦手なこと等は、職員間で協力し合う風土が根付いている。休憩室が整備され、1時間の休憩時間を確保している。また産休や育休等の休暇制度や勤続年数に応じた特別休暇制度が整備されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修がある場合、全職員に参加を働きかけています。また勤務などで参加できない職員には、その時に使用した資料などを確認していただき、内容を共有できるよう努めています。</p>	<p>年1回、人事考課の面談時に、法人のキャリアアップ基準を踏まえ、各職員の資格取得を奨励している。動画研修を含めた研修を毎月行うなど、法人内研修を充実させている。また外部研修や行政主催の研修などには積極的に参加するよう勧めている。また職員間で声を掛け合い、資格を順番に取得するようにしている。法人は、資格取得にかかる費用の補助や、取得後には、資格手当を支給している。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>神奈川県高齢者福祉施設協議会の会員となっており、連絡会や研修等に参加できるよう努めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談を実施し、ご本人の意向や状況を確認し、ケアに反映できるようアセスメントを実施しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時からご家族の心配事を汲み取れるよう傾聴し、説明を実施しています。そして、面談時にもご意向確認を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所初めは、ご本人、ご家族も不安であると思います。状況を記録し、職員間で共有し、ご家族とはメールなども活用しながら、細かに連絡を差し上げるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活を重視して、残存機能を最大限に発揮できるよう声掛けを実施し、家庭的な環境で安心して生活できるよう支援しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段より、ご本人の状況を説明・報告を実施しております。ご本人とご家族の関係性を大切に、面会や外出などで交流もできるように支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は予約制にて面会を実施しております。外出に関してはご家族対応としておりますが、友人と電話で話す機会がある場合は対応しています。	コロナの取り扱いが、第5類に移行した後は、家族との外出や外食を再開している。墓参りや法事に参加したり、正月には帰宅して家族と過ごす予定の方もいる。自分で管理ができる方は携帯電話を所持している。従前の生活習慣や趣味を継続できるように支援しており、毎朝化粧をする方や、趣味のパズルや塗り絵を楽しむ方、ごひいきのスケート選手や野球選手のポスターなどを壁に貼っている方がいる。また調理の好きな方は、エプロンを付けて、自ら野菜を切るなどして、職員を手伝っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が交流しやすいように職員が状況を把握して、関わりができるよう声掛けやレクリエーションを実施しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談等あれば対応するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所前面談時に本人や家族の意向を聴取し、確認しています。意向に沿えるよう努めています。	入居時アセスメントで利用者の生活歴や環境等を把握し、利用者、家族の意向を聞いて、介護計画を作成している。入居後は、日常の生活の中で、利用者が、ふとつぶやいた思いや意向をできるだけ汲み取り、介護計画に反映させることもある。現在、利用者の半数以上が自分の意見を伝える事ができる。また他者への不満なども口にされる事も多々ある。利用者の思いや意向はタブレットの特記・連絡事項欄に記入し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前面談時に聴取して把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	慣れ親しんだ生活様式を取り入れながら、穏やかに生活できるよう努めています。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを実施し、課題や提案事項をチームで共有し、介護計画に反映し、作成しています。	入居時介護計画は、1か月で見直しているが、その後は、短期目標6ヶ月、長期目標を1年にして、2か月ごとに居室担当者と計画作成担当でモニタリングをしている。ケアカンファレンスは、通常、計画作成担当者と居室担当者で行うが、必要に応じて看護師や理学療法士が参加することもある。見直し時には、事前にユニット職員にケアの課題や意見を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践での成功内容も含め、状況や気づきなどを必ず記録に残しています。全職員が業務に就く前に確認するよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診や居宅療養管理指導、福祉用具の活用など、必要なサービスも相談があれば紹介できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症があり、今まで減少していた外出などは、ご家族の協力やお散歩などを行ないながら買い物に出かけたり、自治会の催しにも少しずつ参加し始めてきました。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望にお任せしています。受診の際は、看護師より受診記録として、主治医宛に連絡事項を記載してお渡ししています。	利用者の約半数が3つの医療機関と個別契約をして訪問診療を受けている。その他の方は、入居前からのかかりつけ医へ家族対応で通院している。看護師が週2日から3日勤務しており、受診時には、事前に先方の医師に利用者の状況報告書をFAXで送付している。専門科には全員が家族同行で受診している。受診後は家族から結果等を聞き、タブレットの医療情報に記載している。歯科医は、必要に応じて来所している。毎日の口腔ケアは食事の都度、職員が対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	タブレット端末での記録のほかに、介護職員と看護職員間でやりとりできる連絡帳を作成し、共有できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>円滑に対応できるよう協力医療機関等と情報を共有しています。その情報も必要最低限として、もし相談などがある場合は病院関係者と密に連絡調整するよう努めています。</p>		
33	15	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合の対応については、見学時や契約時にも説明をさせていただいています。特養や療養型医療機関などの移行に関する相談も行っています。</p>	<p>見学時に看取りに対応していないことや、歩行が困難になり車いすが必要になった場合は、特別養護老人ホームへの住み替えを勧めていることを伝えている。法人は特別養護老人ホームも運営しており、家族の安心に繋がっている。特別養護老人ホームへの住み替えも、利用者のADL等を見極め、移行先での生活が楽しめるように配慮しながら勧めている。職員は利用者の急変や重度化に備えた研修を受講している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修にて事故発生時の対応など全職員が参加しています、数名がAED取り扱いについて外部研修にて資格修得しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施し、備えています。今年度1回目の防災訓練では、夜間を想定した訓練を実施しました。	夜間の地震想定避難訓練を利用者全職員が参加して9月に実施している。来年3月には、日中の火災想定避難訓練を予定している。9月の訓練時には太陽光発電非常用コンセントの使用方法を確認し、携帯電話等の充電を実施した。9月の地域の防災訓練に利用者職員で参加し消火器や水バケツリレーでの消火訓練を体験した。備蓄の飲料水は職員分を含め3日分、食品はローリングストックで1日以上確保している。それ以外の備蓄品は、近くにある法人の倉庫で管理している。衛生用品や熱源等の備品類などの保管もある。BCPは法人で策定しているが、地域との連携を踏まえた訓練などが今後の課題になっている。	夜間専従勤務者や地域の方と連携を踏まえた訓練が未達成です。地域の実情やニーズを踏まえ、事業所として協力できること、協力をお願いしたいことなどを運営推進会議で話し合うことを期待します。また事業所内外の家具や備品等の設置方法や防災対策など今一度再確認されることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に相手に対する敬意を感謝を持ち、言葉遣いや立ち振る舞いに気を配るよう全職員が意識するよう努めています。	今年度の目標のひとつに職員の品格の向上を掲げ、接遇に力を入れている。理念にもある「あなたの安心」の実現には、職員一人ひとりが自分自身の本質と向き合い、相手を尊重した言葉遣いや立ち振る舞いを意識するよう管理者は職員に指導している。利用者の名前は「さん」付けで呼び、居室への入室には必ず許可を得ている。タブレットは職員毎にパスワードで管理をしている。個人情報を含む書類等は施錠できるキャビネットで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを表せるように、常日頃から声掛けや関わりを多く持つように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを確立するために、ご本人のあったケアを実践するよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ洋服を着まわさない、季節にあった衣類を着用していただく等、見守りや声掛け、準備を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々にあった食事形態で提供し、美味しく召し上がっていたできるよう実践しています。後片づけ等の役割をお願いすることで、残存機能の維持向上もできると感じています。	食事は、法人の管理栄養士が作成した献立に沿って、法人で購入した食材と事業所ごとに近くの商店やスーパーなどで購入した食材を用い、職員と利用者が一緒に作っている。訪問当日も2名の利用者が包丁で野菜を刻み、職員と一緒に昼食作りをしていた。コロナ禍以降、外食レクができないため、雛祭りや敬老の日にはお寿司、父の日にはウナギの出前を取り入れ、食に変化をつけている。クリスマスや誕生日には職員と利用者でケーキを作りお祝いをしている。おやつレクでどら焼きや焼きそばなどを作って、楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立を提供していますので、栄養バランスも問題ないと思います。塩分には注意を払っていて、減塩醤油なども活用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず口腔ケアを実施しています。ご自身でできない場合は介助にて実施。希望者には、訪問歯科なども紹介させていただいています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に合った排泄方法を実践しています。日中は全員がトイレでの排泄を実施しています。トイレ介助者、誘導者には、定時・随時にて対応対応しています。	日中は、全ての利用者が筋力低下の予防を兼ねて、トイレまでの歩行を目標に取り入れ、排泄はトイレを使用している。現在、布のパンツを使用している。自立でトイレに行く方が5名ほどいる。その他の方は、リハビリパンツにパッドを使用している。夜間は転倒予防も兼ねポータブルトイレを使ったり、パッドを夜用に変えて睡眠を優先するなど、個々の排泄事情を考慮した対応をしている。トイレは一日2回の清掃に加え、感染症予防の消毒を施し、清潔の保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と看護師が連携し、排便コントロールを実施しています。介護職員は看護師指示による下剤管理表を把握して対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	菖蒲湯やゆず湯など季節の入浴方法も取り入れています。入浴日は設定していますが、状況によっては変更もして、個々に応じた入浴を実施しています。	週2回、午前中に4~5名の方が入浴している。左右にスライドする浴槽で、1階にはリフトが整備され、浴槽を跨げない2階の方も利用している。浴槽の湯は、清潔に配慮して足し湯をしている。当日の気分で「今日はいいわ」と言う方には、無理強いせず時間や対応者を変え誘導している。季節の菖蒲湯等のほか、好みの入浴用品を持ち込んでもらうなど、入浴を楽しむことができる支援をしている。入浴できない日にはリハビリパンツを使用している方には、1日2回洗浄をして皮膚のトラブル防止に務めている。浴室暖房機や脱衣場の床暖房でヒートショック対策をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内温度の調整や、週1回必ずリネン交換を実施し、安眠できる環境を作っています。体調に留意し、昼食後の静養時間を設けている方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬方法を把握し、ご本人がきちんと服用しやすい性状を主治医と相談して対応しております。服薬に関して変化等ある場合は、記録にきちんと残し職員間で共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月例レクリエーションの実施。毎月担当職員が、季節にあった特別レクリエーションを企画し実施しています。大変喜ばれています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候のいい日は散歩やドライブを実施しています。家族との外出も少しずつ増えてきています。	家族から「歩かせて欲しい」「外出させて欲しい」などの要望もあり、お天気の良い日には車いすの方も事業所周辺の散歩に出かけている。今年度は、事業所の車で、ドライブを兼ねて近くの神社への初詣や、4月の桜見物、5月の鯉上りの川渡し、紅葉狩りなど、四季折々に出かけている。また、リビングに面したウッドデッキで、春から夏にかけて園芸レクを実施して、プランターで花や夏野菜を育てて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として、個々のお金を事務所管理としてお預かりしています。買い物や散髪などができるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的な電話など施設の電話にあればお繋ぎしています。現在本人管理で携帯電話の持ち込みをされている方が1名います。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁画や、レクリエーション内容の写真を掲載しています。	環境衛生委員の職員が担当となり、共有空間の温湿度を管理している。加湿器の設置、時間を決めた換気、毎月1回の滅菌スプレーの使用して、感染症対策を講じている。リビングには床暖房が施され、ウッドデッキに面した大きな掃き出し窓からは明るい日差しが差し込んでいる。リビングの壁には職員と利用者が共同制作した季節の貼り絵やカレンダー、1日のスケジュール表が貼られている。訪問当日、2階のリビングにはクリスマスツリー、玄関には幼稚園からプレゼントされた手作りのリースが飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席にも配慮をし、必要であればテーブルレイアウトや座席の変更を行って、一人ひとりが過ごしやすいよう努めています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室となっており、入居の際は、本人の思い出の品や好きなものを持参していただくようお願いしています。自分の好きなものに囲まれ、安心して過ごしていただくと良いと思っています。	居室には洗面台が備え付けられ、介護用ベッドに寝具（マット、掛布団）、エアコン、防炎カーテン、照明が備えている。自宅からテレビ、時計、加湿器などの生活用品や、机やいすなどの家具類のほか、仏壇を持ち込んでいる方もいる。利用者はそれぞれの居室を趣味のフィギュアや好きなタレントやスポーツ選手、家族写真や現役時代の写真などを飾り、居心地の良い部屋にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	就寝中などは離床マットセンサーを活用し、転倒リスクのある方の安全に努めています。他、衝撃吸収マットやポータブルトイレの設置なども行なっています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

愛甲グリーンホーム

作成日

令和6年3月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の委員に家族の参加がありません。家族に事業所の運営に関心を持っていただき、意見や要望を運営に反映させるためにも、運営推進会議への参加を求めることを提案いたします。全家族に書面開催の報告書を送付し、多様な意見をいただくことを期待します。	運営推進会議を開催し、利用者や家族、厚木市職員、地域住民代表者等に対し提供サービスを明確にし、地域に開かれたサービスを実施します。	状況を確認しながら実施できるよう準備をしていきます。利用者や家族の意見を反映できるように常日頃から意見を収集できる関係性を構築します。	令和6年3月16日～令和7年3月31日
2	35	夜間専従勤務者や地域の方と連携を踏まえた訓練が未達成です。地域の実情やニーズを踏まえ、事業所として協力できること、協力をお願いしたいことなどを運営推進会議で話し合うことを期待します。また事業所内外の家具や備品等の設置方法や防災対策など今一度再確認されることを期待します。	安全な場所への避難や屋内での安全確保を早い段階で開始できるように、災害発生前の備えていきます。	地域と連携するために、実情を把握し、地域参加を実施します。夜間対応者との避難時の対応方法を確認していきます。	令和6年3月16日～令和7年3月31日
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。